

## ■基礎分野

科目名	授業の目的・到達目標
化学	<p>&lt;授業の目的&gt; 専門的職業人として生体と医療材料を化学的に理解することを目的とする。</p> <p>&lt;授業の目的&gt; 大学1年レベルの基礎化学の問題を解くことができる。基礎化学生体内で起こる現象と材料の特徴を化学的に説明できる。</p>
生物学	<p>&lt;授業の目的&gt; 自然科学としての生物学の基本的な概念、知識の習得を目的とする。</p> <p>&lt;授業の目的&gt; 主に生物の体の基本となる「細胞」の構造と機能という観点から、生物、生命現象に関する理解を深め、それを小テストの解答として文章で表現できる。</p>
物理学	<p>&lt;授業の目的&gt; 「身のまわりの現象から物理学を理解する」をテーマに、私たちが日常経験するさまざまな現象が物理学の法則によって説明されることを学ぶ。数式は最小限にして、法則の物理的意味の理解に重点を置く。特に、医療の世界でも物理学が重要な役割を果たしていることを理解する。</p> <p>&lt;授業の目的&gt; 力学・熱学・波動・電磁気学、および原子・原子核の初歩的な知識の概要を説明することができる。</p>
倫理学	<p>&lt;授業の目的&gt; 平和を友愛に貢献するため、現代の倫理的問題（社会問題）に対して、哲学的アプローチを試みる。</p> <p>&lt;授業の目的&gt; 現代の倫理的問題の背景としてある思想・価値観を知り、自分なりの判断基準を説明できるようにする。</p>
社会学	<p>&lt;授業の目的&gt; 曖昧で掴みどころのない「社会」を把握するための道具となる社会学的な概念を学び、身の回りにある社会事象を社会学的視点から理解できるようになる。</p> <p>&lt;授業の目的&gt; 社会学的概念を駆使しながら、身の回りの社会事象を批判的かつ客観的に把握・理解し、説明することができる。</p>
心理学	<p>&lt;授業の目的&gt; 広い視野から人命を尊重し、その責任感と倫理観に基づいて、キャリア形成基礎力を発揮する専門的職業人として活躍するため、人間形成や対人関係のあり方、さらには社会現象の理解につなげ、社会適応を促進するための知識と測定方法を理解し活用することができるようになる。</p> <p>&lt;授業の目的&gt; 社会の状況を積極的に受け入れ、倫理的な観点から考えて行動するため、心理学に関する理論を自らの体験や日常生活で見られる事例を踏まえながら説明し、自らの将来計画に活かすことができる。</p>
法学	<p>&lt;授業の目的&gt; 人命を尊重する意識を高めるため、学生が法の主要分野に関する基礎的な知識を得ることを目的とする。</p> <p>&lt;授業の目的&gt; 学生が法の主要分野について学ぶことにより、「契約自由の原則」や「罪刑法定主義」などの、現在の我々の生活を取り巻く法の基本原則を理解することができる。</p>
日本国憲法	<p>&lt;授業の目的&gt; 学生が、我が国の基本法である日本国憲法に対する理解を深めることの手助けをするのがこの授業の目的である。</p> <p>&lt;授業の目的&gt; 学生が日本国憲法に対する興味を持つようになる。</p>

情報科学	<p>&lt;授業の目的&gt;          情報収集したものをまとめる力を身につけることにより、学習した成果をプレゼンテーションできるようになるために、インターネットの仕組みを理解し、Office アプリケーション (Word・Excel・PowerPoint) の基礎知識・技術を習得する。また、情報モラル・セキュリティにおける基礎知識を身につける。</p> <p>&lt;授業の目的&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットを用いての情報収集技能の習得。</li> <li>・ビジネス文書作成に関する基礎的技能の習得。</li> <li>・表計算、ビジネス図表作成に関する基礎的技能の習得。</li> <li>・仕様に従った標準的なプレゼンテーション作成に関する基礎的技能の習得。</li> </ul>
英語 I	<p>&lt;授業の目的&gt;          歯科衛生士の基本的な対人英語コミュニケーション能力を育成します。</p> <p>&lt;授業の目的&gt;          英会話練習、リスニング練習、発音練習をして、英語の基礎力を身につけます。</p>
英語 II	<p>&lt;授業の目的&gt;          Students will become more internationalized by acquiring the knowledge &amp; mastering basic English language skills (vocabulary, English expressions &amp; grammar) to express themselves &amp; communicate in English.</p> <p>&lt;授業の目的&gt;          The students will study basic English vocabulary &amp; expressions about everyday topics by reading, writing &amp; speaking (role-playing).</p>
運動と健康	<p>&lt;授業の目的&gt;          実際の日常業務を体験することで、医療従事者としての役割と責任を自覚すると同時に自分自身の健康管理の大切さを自覚できるようになる。運動と健康のかかわりについて理解を深めることを目的とする。</p> <p>&lt;授業の目的&gt;          運動と健康の密接な関連を知り、健康な生活を送ることができる。</p>
生涯スポーツ実技	<p>&lt;授業の目的&gt;          健康的な生活を送るために、いつでも、どこでも、だれもスポーツに親しみ楽しもうという、考え方のもと、卓球をとうして身体強化、持久力、協調性を養うことを学ぶ。</p> <p>&lt;授業の目的&gt;          自分自身の身体を理解することで、楽しみながら「挑戦」することができる。</p>
キャリア形成演習	<p>&lt;授業の目的&gt;          自身の将来の生き方等を選択することができる能力を養う。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①キャリア形成基礎力「感じ、広げる力」「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を身に付ける。</li> <li>②医療衛生学科での学びを更に深めるために、関連する職業に就いての実社会での活動を知り、大学での学びが社会において持つ意味に気づくことができる。</li> </ol>

## ■専門基礎分野

科目名	授業の目的・到達目標
解剖学	<p>&lt;授業の目的&gt; 解剖学は医学・歯学の最も基礎的な学問領域である。人体（口腔組織も含む）の形態と構造について理解し、説明できるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 標本や画像を通して、人体がどのような構造から成り立っているかを説明できる。人体の発生過程を順序たてて記述できる。口腔の組織について説明できる。体の各器官の構造について観察力を養い、スケッチで描き、説明できる。</p>
生理学	<p>&lt;授業の目的&gt; 身体を構成する細胞や組織の働きを理解して、どのように体の仕組みができていているかを認識できるようになる。口腔内の感覚、顎運動、唾液などの機能について、総合的に理解できるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 身体とそれを構成する器官がどのように機能しているか、あるいはどのような仕組みで調整されているか具体的に述べるができる。体の各器官の働きを文章で表現できる。体や口腔内の感覚、運動などの機能について、調べることができる。</p>
口腔解剖学Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; 関連臨床科目の基礎となる口腔周囲の各器官の形態や構造を肉眼的に理解することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 口腔の表面構造について説明することができる。 口腔の土台および頭蓋骨を構成する骨を述べるができる。 口腔付近を分布している筋肉および神経・血管を述べることができる。</p>
口腔解剖学Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 歯科衛生士として、歯についての基本的な歯の名称、歯の記号、及び歯の萌出の機序などの知識を理解できるようになる。また、模型や画像を利用して、永久歯および乳歯の個々の歯牙の見分け方（鑑別）ができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 歯の解剖学について、各々の歯の形と機能について具体的に述べるができる。歯が咀嚼器官であり、発声器官としての働きがあることを習得できる。各々の歯の形を観察力を養い、絵で表現できる。抜去歯の鑑別ができる。</p>
栄養学・生化学	<p>&lt;授業の目的&gt; 専門的知識を持ち、健康支援ができるようになるため、食生活から栄養素の代謝までマクロ的な視点とミクロ的な視点の双方向から理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 健康を維持・増進するための食生活のあり方を栄養素の働きに基づいて説明できる。。</p>
病理学	<p>&lt;授業の目的&gt; 病理学とは、疾病の原因、成り立ち、経過、結果について科学的根拠を確立する学問である。口腔領域の組織や臓器に発生する病変について理解を深めることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ①病理学は、医学の基礎であり医学用語の定義を十分に理解し、説明することができる。 ②疾患の多様性と共通性について説明ができる。 ③病因と関連した疾患の発生、病態・病理を説明することができる。</p>
微生物学	<p>&lt;授業の目的&gt; 微生物の種類と特性を理解する。感染と生体の防御機構を理解する。防御の補助手段としての滅菌、消毒及び化学療法を理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ①微生物学の概要とヒトに対する感染成立機序を理解する。 ②自然免疫と獲得免疫の異同を説明できる。 ③免疫疾患について説明できる。 ④化学療法の目的と作用機序を説明できる。 ⑤清潔と不潔の区分、滅菌と消毒の意義とその代表的な方法を説明できる。 ⑥う蝕の病因と病態を説明できる。 ⑦歯周疾患の病因と病態を説明できる。 ⑧口腔細菌の全身への影響を説明できる。 ⑨院内感染と標準予防策を説明できる。</p>

薬理学	<p>&lt;授業の目的&gt;          疾病の回復を促進する薬としての、総論、中枢神経系と薬、末梢神経系と薬、循環・呼吸器系と薬、血液と薬、炎症と薬、ビタミン・ホルモンと薬、感染症と薬、悪性主要と薬、免疫と薬、漢方医学と薬、歯科疾患の回復を促進する薬としての、歯・歯髄疾患と薬、歯周疾患と薬、顎・口腔粘膜疾患と薬、服薬指導、を学習し、歯科衛生士として必要な薬理学を理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;          歯科治療に使用される薬物だけでなく、全身疾患およびその治療薬を知り説明できる。</p>
口腔衛生学Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt;          口腔衛生学を学ぶことにより、口腔の正常・異常像を知り、歯と口腔の疾病の根拠に基づいた予防法とその手段を理解することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔の正常像を説明することができる</li> <li>・う蝕および歯周病の予防法について、具体的に述べることができる</li> <li>・う蝕状況を示す指数について説明することができる。</li> </ul>
口腔衛生学Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt;          歯科衛生士は、現在さまざまな課題が課せられている。今日では、健康志向の高まりや口腔機能の重要性が叫ばれるなか、全身疾患、摂食嚥下障害を有する患者や介護を要する高齢者の増加に対して、これまで以上に予防や食べる機能を重視し、口腔と全身の関係を考慮し他職種と連携しながら対応していくことが求められている。そのため、法令・制度への理解、活動の計画立案、評価を行うための、技能を習熟することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域保健活動の法令及び制度、歯科衛生士の役割について知る他職種との連携ができる。</li> <li>・各ライフステージの歯科保健について説明することができる。</li> <li>・歯科衛生統計を理解し身に付けることができる。</li> </ul>
衛生学・公衆衛生学	<p>&lt;授業の目的&gt;          歯科衛生士として人々の健康を増進させることのできる基本的な衛生知識と社会的知識を身につけるために我々を取り巻く環境問題や衛生問題を学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人の健康に影響するあらゆる環境因子について学び理解することができる。</li> <li>・感染症の分類や予防接種について基本的な知識を身につけることができる。</li> <li>・日本の健康政策や状況を学び医療技術者としての知識を深めることができる。</li> </ul>
衛生行政	<p>&lt;授業の目的&gt;          公衆衛生の向上および増進を図る社会的機能について理解し、公衆衛生を取り巻く関連職種と歯科衛生士法並び福祉行政について理解し、的確に判断できるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>衛生行政とは何か説明することが出来る。          歯科関係三法の法について概要を述べる事が出来る。          社会保障についての行政機構を説明することが出来る。</p>
社会福祉	<p>&lt;授業の目的&gt;          保健・医療・福祉を総合的に捉え、他職種と協働・連携することができるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が社会保障制度、社会福祉サービスを身近なものと感じるようになる。</li> <li>・学生が社会保障制度の内容、各分野の社会福祉サービスの内容や仕組みについて理解し、説明できるようになる。</li> <li>・学生が現代の社会の（福祉）問題について考える力をつける</li> </ul>

## ■専門分野

科目名	授業の目的・到達目標
歯科衛生士概論	<p>&lt;授業の目的&gt; 歯科衛生士概論は、歯科衛生士になるためのオリエンテーションであり、歯科衛生士法に基づいて業務範囲を学びまた、他職種との関わりや連携を図るために幅広い知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科衛生士法を知り、歯科衛生士の業務範囲を説明することができる。</li> <li>・歯科衛生士に必要な心構えや知識を知り、医療従事者としての倫理観をもつことができる。</li> <li>・臨床現場での、他職種との関わりや連携の必要性を述べることができる。</li> </ul>
保存修復学・歯内療法学	<p>&lt;授業の目的&gt; 歯科疾患、特にう蝕についての内容と処置方針の理解および歯科衛生士としての対応について習得することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保存修復の種類を説明することができる。</li> <li>・歯内療法の術式を述べることができる。</li> <li>・歯科における偶発事故について述べることができる。</li> </ul>
歯周治療学Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; 歯周疾患について病気の原因や処置方法を学び、歯科衛生士として歯周治療に関わるための知識を得ることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯周疾患の種類・原因を述べることができる。</li> <li>・歯周治療における歯科衛生士の役割を述べることができる。</li> <li>・歯周治療の進め方を理論に基づいて説明できる。</li> </ul>
歯周治療学Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 歯周外科治療や口腔機能回復治療について治療の術式や適応を学び、歯周外科手術などの治療時の歯科衛生士としての役割を果たすための知識を身に付ける。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯周外科治療の術式を説明できる。</li> <li>・歯周外科手術の適応症を述べることができる。</li> <li>・歯周外科治療に使用する器具を列挙できる。</li> </ul>
歯科補綴学Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; 補綴学の基本的な事と、最近重要な問題となっている感染症に対する補綴処置のうえで使用する器具材料等の滅菌法について理解し、説明できるようになることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補綴装置の種類を説明することができる。</li> <li>・義歯の分類とその構成について類別することができる。</li> <li>・感染に対する滅菌法について述べることができる。</li> </ul>
歯科補綴学Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 歯科補綴学Ⅱでは、治療全体の流れと技工操作との関連を理解し、総合的に技工過程を説明できるようになることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補綴治療に用いられる器材の準備ができる。</li> <li>・下顎運動と咬合の機能検査について説明することができる。</li> <li>・義歯の構成を説明することができる。</li> </ul>
口腔外科学	<p>&lt;授業の目的&gt; 口腔領域疾患の基礎ならびに観血処置に必要な麻酔の概要を学び、全身状態の把握ができる知識を習得し、歯科衛生士としての職務に役立たせる能力を身につけることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>口腔疾患の全身への影響について理解し、説明することができる。</li> <li>口腔領域の異常の種類について説明することができる。</li> <li>口腔外科小手術の歯科衛生士の役割と術後の注意点について説明することができる。</li> <li>滅菌と消毒の意義について述べることができる。</li> <li>麻酔法の種類について述べることができる。</li> </ul>

小児歯科学Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; 成長期にある小児の精神的・身体発育と口腔内の発育段階について理解し、知識を習得することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 小児の生理的特徴および発達段階と口腔内の変化について説明できる。 顔面頭蓋の発育および歯の発育異常について説明できる。</p>
小児歯科学Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 小児歯科診療における歯科衛生士の役割を理解するために、小児にみられる疾患の特徴や診療時の対応法を学ぶことを目的とする</p> <p>&lt;到達目標&gt; 小児にみられる歯科疾患について説明することができる。 小児歯科診療時における患児の対応法および診療補助の注意点について説明することができる。 小児の口腔保健管理について患児と保護者に説明ができる。</p>
矯正歯科学Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; 歯科矯正治療の基礎及び臨床に関する治療法等を学び、矯正治療中の口腔管理について説明できるようになることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ・不正咬合の原因について説明することができる。 ・矯正治療中の口腔管理の方法を習熟する。 ・矯正治療の機材等の準備ができる。</p>
矯正歯科学Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 歯科矯正治療の基礎及び臨床に関する治療法等を学び、矯正治療中の口腔管理について説明できるようになることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ・不正咬合の原因について説明することができる。 ・矯正治療中の口腔管理の方法を習熟する。 ・矯正治療の機材等の準備ができる。</p>
歯科予防処置基礎実習	<p>&lt;授業の目的&gt; 歯科予防処置の基礎知識を学び、実習を通して口腔観察や予防的歯石除去について知識と技術を身につける。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ・基礎知識を理解し、安全配慮をしながら口腔内を触ることができる。 ・予防的歯石除去を行うにあたり、必要な器具を操作することができる。</p>
う蝕予防処置	<p>&lt;授業の目的&gt; う蝕予防処置法の種類を理解し、さまざまな年齢や障害者、集団への応用を知ることが目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ・フッ素の効果と限界を知り、説明できる。 ・患者にあったう蝕予防処置法を選択することができる。 ・コミュニケーションをとりながら指導を行うことができる。</p>
歯周病予防処置	<p>&lt;授業の目的&gt; 歯周病は生活習慣病として罹患患者が多く、その予防や治療に歯科衛生士が多く関わっている。歯周病予防における歯科衛生士の役割について実習を通して身につける。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ・歯周病について患者向けに説明できる。 ・スクレーピング・ルートプレーニングの知識および技術の操作できる。</p>
口腔保健管理法	<p>&lt;授業の目的&gt; 主として歯科診療補助・歯科予防処置・歯科保健指導において理論と実践を直接結びつけるために総合的に理解することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ・ライフステージごとの口腔保健管理の方法を説明することができる。 ・業務記録をまとめることができる。 ・継続管理の必要性を説明することができる。</p>

<p>歯科保健指導</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;          歯科保健指導が歯科衛生士の業務の主要業務であることを理解し、ライフステージ別に指導できるようになることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異なった環境の下で生活している個人に、最もふさわしい歯科保健行動（健康行動）がとれるように考える機会をもつことができる。</li> <li>・ブラッシングやフロッシングさらに単純な食事指導などが的確に指導できるようになる。</li> </ul>
<p>歯科保健指導基礎実習</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;          歯や口腔の健康維持のための予防的手段を学び、個々の口腔内の状態から、よりよく歯科保健行動を変容させる自らが選択し意識的に行うように支援できるように知識と技術を身につけることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯の磨き方（ブラッシング法）の種類とその方法を説明できる。</li> <li>・個々の口腔内の状態にあった歯の磨き方を選択し、説明できる。</li> <li>・う蝕活動性試験の特徴を簡潔に述べることができる。</li> </ul>
<p>歯科保健指導実習</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;          歯科保健指導が歯科衛生士の業務の重要な分野であることを理解し、実習で実施される内容が指導現場においては卒後に適用できるようになることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な例を挙げグループで問題を討議しながらまとめていくことを学び、効果的な指導ができるようになる。</li> <li>・訪問指導の重要性を明確に知る</li> <li>・実習をマスターしていくために歯科保健指導に情熱が感じられるようになる。</li> </ul>
<p>栄養指導</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;          健康と食生活の関わり、食物とう歯と歯周疾患との関連について学び、ライフステージ別の栄養指導を理解して、歯科栄養指導を的確に判断できるようになることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>ライフステージ別の栄養指導について、自らの体験や生活習慣、食物とう歯と歯周疾患との関連に見られる事例を踏まえて説明することができる。</p>
<p>健康教育</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;          専門的な立場から歯みがき指導が出来るように知識と技法を身につけ、個人・集団に対して説明できるようになることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画案を作成することができる。</li> <li>・個人指導では、口の中の状態を把握し3ヵ月後の状態を予測した計画を立てることができる。</li> </ul> <p>集団指導では、媒体を作製し、実際に保育園等で45分間を使って歯みがき指導を実施することができる。</p>
<p>診療補助基礎</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;          歯科衛生士としての心構えと診療室の環境の整備ができることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療台の操作と管理ができる。</li> <li>・感染予防について具体的に説明することができる。</li> <li>・正しい器材の取り扱いができる。</li> </ul>
<p>歯科材料学</p>	<p>&lt;授業の目的&gt;          歯科材料の基礎知識を理解し、その取り扱いについて熟知し、できるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科材料の性質と使用法について述べることができる。</li> <li>・充填材料についての種類を説明することができる。</li> <li>・印象材の分類と用途および使用方法においても説明することができる。</li> </ul>

高齢者・障害者介補技術	<p>&lt;授業の目的&gt;          身体のしくみ及び発達・老化の過程を理解し、生活習慣病や老年期に多い疾患を学び、介護を必要とする高齢者・障害者に尊厳に基づく、自立支援の視点で提供できる介護技術を身に付けることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老化の課程と老年期における疾患を説明することができる</li> <li>・清潔介助（身だしなみ、ベッドメイキング、衣類の着脱等）ができる</li> <li>・安全・安楽な姿勢で口腔のケア介助を行うことができる</li> </ul>
診療補助実習Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt;          基礎的な診療補助業務をスムーズに行うための必要なテクニックについて理解し、安全かつ危機管理が的確にできるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全と感染予防について述べるができる。</li> <li>・歯科診療台の操作と各部の名称を述べるができる。</li> <li>・バキュームの目的と禁忌部位について説明することができる。</li> <li>・印象材の特徴を説明することができる。</li> <li>・個人にあった印象採得方法を身に付けることができる。</li> </ul>
診療補助実習Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt;          歯科診療補助について十分理解し、基本的事項について習得することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;          歯科衛生士の業務の中でも主となる歯科診療の補助は、歯科治療の流れを理解したうえで、実技を身につける。</p>
診療補助実習Ⅲ	<p>&lt;授業の目的&gt;          各種の歯科材料における知識（特性）と取り扱いの技術を身につけ、共同動作がスムーズに運ぶようになることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の歯科材料における特性を述べる。</li> <li>・材料の取り扱いとタイミングを熟練する。</li> <li>・各種材料に使用する器材の準備ができる。</li> </ul>
診療補助実習Ⅳ	<p>&lt;授業の目的&gt;          歯科臨床実習に十分対応し得る能力を習得することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療内容を理解し、各術式にあった必要器材の準備をすることができる。</li> <li>・暫間被覆冠を作製することができる。</li> <li>・各種器具の用途を理解し、受け渡しを習得する。</li> </ul>
医療保険	<p>&lt;授業の目的&gt;          医療保険制度の基礎的な知識を習得し、実務に即した知識の応用及び関連する他の公的医療制度を学習することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;          上記で学習した内容を医療関連業務に携わったとき実践できることを目標とする。</p>
オーラルヘルスケアテクニック	<p>&lt;授業の目的&gt;          加速する高齢化社会を迎えての対応策として、特に高齢者や障害者への口腔を中心としたケアをするために知識と技術を強化することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーラルヘルスケアの概要と保健・医療・福祉・介護との連携が理解できる。</li> <li>・オーラルヘルスケアを必要とする対象者について基礎知識を述べるができる。</li> <li>・対象者にオーラルヘルスケアを提供できるために必要な知識や技術を身につけることができる。</li> </ul>
臨床実習（基礎）	<p>&lt;授業の目的&gt;          講義で学んだ理論を基に歯科医院内の診療内容を把握し、今後の実習の動機づけにすることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床現場での診療システムを習得することができる。</li> <li>・臨床現場での歯科衛生士の業務範囲を知り、習得することができる。</li> <li>・臨床現場での患者への対応を見学し、どのように意思疎通を図っているか述べることができる。</li> </ul>



臨床実習（Ⅰ期）	<p>&lt;授業の目的&gt; 講義で学んだ理論を基に、医療機関ではどのように行われているか、診療の流れを把握して体験し、歯科衛生士業務の基礎的な能力を養い、併せて医療技術者としての望ましい人間性を身につけることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療の流れを理解し、介助の技術を経験・習得することができる。</li> <li>・歯科衛生士の業務の多面性を知り、学内実習で得たことを応用することができる。</li> <li>・患者とのコミュニケーションの取り方を習得することができる。</li> </ul>
臨床実習（Ⅱ期）	<p>&lt;授業の目的&gt; 円滑な診療を行うために、共同動作がいかに大切で、効率的に行われているかを理解し、この実習を通じて、歯科予防処置、歯科保健指導及び歯科診療補助の実際の方法を学び、歯科衛生士業務の基礎的な能力を養い、併せて医療技術者としての望ましい人間性を身につけることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療の流れを理解し、介助の技術を経験・習得することができる。</li> <li>・歯科衛生士の業務の多面性を知り、学内実習で得たことを応用することができる。</li> <li>・患者とのコミュニケーションの取り方を習得することができる。</li> </ul>
臨床・臨地実習	<p>&lt;授業の目的&gt; 円滑な診療を行うために、共同動作がいかに大切で、効率的に行われているかを理解し、この実習を通じて、歯科予防処置、歯科保健指導及び歯科診療補助の実際の方法を学び、歯科衛生士業務の基礎的な能力を養い、併せて医療技術者としての望ましい人間性を身につけることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療の流れを理解し、介助の技術を経験・習得することができる。</li> <li>・歯科衛生士の業務の多面性を知り、学内実習で得たことを応用することができる。</li> <li>・患者とのコミュニケーションの取り方を習得することができる。</li> </ul>
臨地実習	<p>&lt;授業の目的&gt; 望ましいコミュニケーションとは何かを学び、施設における日常の健康管理、殊に口腔管理がどのようにされているのかを理解し、口腔衛生を通して自立支援の一助ができるようになることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の流れを把握し、自立支援の援助となる事柄を自ら見出すことができる。</li> <li>・利用者とのコミュニケーションをとることができる。</li> <li>・食前の嚥下体操・口腔体操および食後の口腔清掃ができるようになる。</li> </ul>

## ■選択必修分野

科目名	授業の目的・到達目標
課題研究	<p>&lt;授業の目的&gt; 地域に密着し、住民の健康・衛生の向上に貢献しうる人材の育成を実現するため、必要な情報収集、問題点の抽出、問題解決のための論理的思考や文章表現能力、プレゼンテーション能力を養うことを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt; IT機器を活用しての文献検索法、文章表現法、プレゼンテーション方法や技法を理解する。 自主的にグループ学習をおこない3年間の学外歯みがき指導のまとめのプレゼンテーションをすることができるようになる。</p>
総合講義	<p>&lt;授業の目的&gt; 基礎歯科学と臨床歯科学を総合的に学び、全身疾患と口腔との関連を知り、その予防法と口腔管理のしかたを総合的に理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の構造と機能、口腔の疾患などを説明することができる。</li> <li>・う蝕や歯周病が全身に影響することを説明できる。</li> <li>・歯科矯正治療期間のストレスについて考慮ができ、患者への援助ができる。</li> </ul>
健康教育演習Ⅰ	<p>&lt;授業の目的&gt; 人命を預かる責任感と倫理観を有し、平和と友愛へ貢献する上で、特に子ども期の健康を支える専門的職業人として活躍するため、食・医・教育の多様な分野から「歯みがき」の指導法についての計画を立て実践する。さらに、学習内容を所属学科・専攻へ持ち帰り、各専門性に活用する視点を養う。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 子ども期の歯みがきについて、各専門性と連携しながら、子ども期の健康づくりに貢献できる実践力を身につけ、倫理的な観点から専門的知識と技能を活用して考え抜き、自ら行動することができる。さらに、多様な専門性の視点を自分たちの専門性へ反映することができる。</p>
健康教育演習Ⅱ	<p>&lt;授業の目的&gt; 人命を預かる責任感と倫理観を有し、平和と友愛へ貢献する上で、特に高齢者の健康を支える専門的職業人として活躍するため、食・教育・医療の分野から高齢者の健康の指導法について計画を立て実践する。さらに、学習内容を所属学科・専攻へ持ち帰り、各専門性に活用する視点を養う。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 高齢者の健康で心豊かな生活について、各専門性と連携しながら、実践活動を通し地域貢献の意義を理解し、倫理的な観点から専門的知識と技能を活用して考え抜き、自ら行動することができる。さらに、多様な専門性の視点を自分たちの専門性へ反映することができる。</p>
臨床心理学	<p>&lt;授業の目的&gt; 臨床心理学では、人の思考・感情・行動とその障害、病院・医療機関での心理臨床の基礎について学習し、歯科衛生の実践場面に活用できるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 臨床心理学に関する処理論と心理アセスメント、心理療法について総合的に理解できるようになり、援助関係を形成する技法について説明できる。</p>
運動機能学	<p>&lt;授業の目的&gt; リハビリテーション医療の分野においても口腔の重要性は周知のことであり、歯科衛生士の活躍の場でもある。口腔機能が全身状態に、全身状態が口腔機能に与える影響は大きく、口腔中心に作業するDHにとって運動機能を知ることは有益なことである。一方、労働衛生教育上、正しい運動機能を理解し実践することは、安全な業務遂行に関する基本的因子でもあり、労働者において必要な知識である。本編では主に運動器の仕組みとそのパフォーマンスに関することを中心に理解し、より良い健康就労ためのと、より良い患者対応への一助とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 運動器の仕組みと機能の基本的事項を理解することにより、①対象者の状態を理解し、適切に対応できる。②運動を通して自己の健康促進と労働災害予防につとめることができる。</p>

看護学	<p>&lt;授業の目的&gt;          歯科衛生士として対象となる人々に適切な医療サービスが提供できる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;          看護の概念や専門職としての倫理を学び、医療提供者として実践の場で応用できる。</p>
高齢者歯科学	<p>&lt;授業の目的&gt;          今後の訪問歯科診療を踏まえ、高齢者の特徴（精神的・身体的）と口腔疾患と全身疾患を理解し、高齢者施設実習での前段階としての知識を身につけることを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者のための保健・医療・福祉システムの現状を理解できる。</li> <li>・高齢者に多い疾患の特徴および口腔の変化について説明できる。</li> <li>・薬剤と疾患の関連性が理解できる。</li> <li>・訪問歯科保健指導の内容が説明できる。</li> </ul>
障害者歯科学	<p>&lt;授業の目的&gt;          生活機能や歯科医療などで特別な支援を必要とする人々に対して、ライフサポートや健康支援ができるよう基本的知識を深めていく。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノーマライゼーションを理解し説明できる。</li> <li>・障害のある人とのコミュニケーションや障害者歯科での歯科衛生士の役割が説明できる。</li> <li>・障害や疾患別の口腔衛生管理を説明できる。</li> </ul>
災害と支援活動法	<p>&lt;授業の目的&gt;          震災関連死で最も多かったのは肺炎といわれている。この要因に水不足による口腔清掃の不備が考えられる。災害時に他職種と連携し歯科衛生士として支援するための知識を身に付ける。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に歯科衛生士が行う基本的支援活動を理解し、述べることができる。</li> <li>・支援活動するうえにおいて、他職種の理解と歯科衛生士としての身体機能・口腔と全身・こころの健康について述べるができる。</li> <li>・災害時の要配慮者への口腔健康管理マニュアルや媒体作成ができる。</li> </ul>
臨床検査学	<p>&lt;授業の目的&gt;          患者さんに接する機会が多い歯科衛生士として、臨床検査データから患者さんの病態を理解することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;          主要な臨床検査に関して、その検査法、検査データの意味、基準値について、演習、実習を通して理解し説明できる。</p>
リハビリテーション概論	<p>&lt;授業の目的&gt;          リハビリテーションの概念・理念の理解を通じて歯科医療に応用できるようになる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;          医療従事者としての資質を身につけ国民保健に貢献できる。</p>
摂食・嚥下機能学	<p>&lt;授業の目的&gt;          歯科衛生士の役割として、歯科保健指導の一環・拡大として、摂食・嚥下障害に対するリハビリテーションが行われるようになってきている。このことから、摂食・嚥下障害に関する、基本的な知識と技術について学修するとともに、対象となる高次脳機能障害（意識障害や認知症等）など対象者に関する知識や、連携を行う他職種についても学修する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 摂食・嚥下機能について理解できる</li> <li>2. 摂食・嚥下障害について理解できる</li> <li>3. アプローチの流れについて理解できる</li> <li>4. 非VF検査等について実施することができる</li> <li>5. 直接・間接訓練について実施することができる</li> <li>6. 高次脳機能障害について理解することができる</li> </ol>